

「備長炭と天然塩でふるさとの海復活事業 など3件を採択」

対馬市わがまち元気創出支援事業

3団体が提案

対馬市わがまち元気創出支援事業補助金制度は、地域コミュニティの更なる強化、地域資源を使った様々な取り組みなどが市民が主役のまちづくりを展開するため、昨年度から実施しています。

今年度からは、より使いやすく、市民が考えるあらゆる事業に対応した支援事業とするため新たに「市民特認事業」を追加しました。

市民特認事業とは

市民自ら考え、自ら実践する人づくり、地域づくり事業であれば、特に制約なく申請可能で、申請者は、公開審査会で、プレゼンテーションを行い、審査委員や傍聴者の市民の評価により、補助金が交付されるか否かを決定します。

補助金の額は、承認事業費から特定財源（会費など）を差し引いた額の100万円が上限です。

ただし、備品購入費がある場合は、補助対象備品購入費に係る事業費の3分の1の補助金を加えた額の上限も100万円としています。

今年度初めて行うこの事業に提案されたのは、対馬で映画を広めて、映画文化をさらに定着させる事業へ対馬に映画を広めて観る会・会長大西真祥さん）、「第2回対馬島の合唱祭開催事業」対馬島の合唱祭実行委員会・会長棧原吉昭さん）、「備長炭と天然塩でふるさとの海復活事業」（しま自慢研究会・代表松村信彦さん）の3団体から応募があり、公開審査に詰めかけた傍聴者と審査委員を前に、緊縛した雰囲気の中、実施目的、内容、想定される事業の効果、地域との関わりなど具体的に発表し、各団体とも事業に対する熱い想いを訴えました。



第2回対馬島の合唱祭開催を提案する棧原さん

公開審査と審査決定



いろいろな角度で質問する審査委員

市民から選ばれた9名の審査委員が、予算の振り分け方、行政との連携、事業普及の方法と効果など様々な角度の立場から提案者に質問を行い、社会への貢献度、事業実施の緊急性、事業の発展性など6項目について評価しました。

傍聴者には、青（非常に良い）、赤（ふつ）、黄（イマイチ）の3種類のカードで事業評価をし、審査に参加しました。

審査結果は、3つの案件のうち2つは審査総点数の6割以上を満たし採択され、第2回対馬島の合唱祭開催事業については、「事業予算の組み立て方について修正を行う」という条件付で採択されました。

公開審査を終えて

審査委員からの講評では、「市民の手づくりによる事業が増え、この補助金へ応募が増えれば一つ一つの事業の質も上がっていくはず。今回採択された皆さんの活躍が期待される」、「疲弊する対馬の中で、この提案を聞いて夢と希望が持てた」、「市民一人一人の力で島が輝き続ける力になる」などの感想が述べられました。

来年度も期待

行政からの考えではなく、市民自らの考えを市民に直接問かけ意見を交換し、市民の期待を背負い事業を進める、市民のための、市民による特認事業です。

対馬市は、来年度も本事業を推進し、市民が主役となる地域づくりの手助けを行います。

公開プレゼンテーションは、皆さんの「キモチ」を「カタチ」にするための一つの手段です。是非、皆さんの奇抜なアイデアを提案し、地域に新たなエネルギーを注いで下さい。